

平成30年2月26日

加盟団体  
競技審判部会部員  
公認レフェリー  
公認審判員資格審査認定委員 各位

(公財) 日本バドミントン協会  
競技審判部長 山田順一郎

## 2018—2019 BADMINTON 競技規則（諸規程集）

ならびに

### 公認審判員資格検定会講習会ルール教本 2018 の発刊について

—スコアリングシステムに関する改訂（ニュースコアリングシステム）と  
サーバーによって打たれる瞬間のシャトルの高さ制限の改訂  
（サービス高の固定 [1. 15 m]）—

平素から本会の競技審判活動の普及発展にご理解とご尽力を賜り誠に有難うございます。

さて、現在何かと話題になっております表記ルール改訂とそれに伴う競技規則書ならびにルール教本の発行に関する現況の報告と今後の見通しについてお知らせいたします。

昨年11月に開催されました BWF 理事会において「スコアに関する改訂とサーバーによって打たれる瞬間のシャトルの高さ制限の改訂」に関する協議がなされ、スコアリングシステムに関しては、現時点において11ポイント5ゲーム制へ移行する案が理事会案として本年5月に開催される BWF 総会に上程される公算が高くなりました。また、サービス高に関しましては本年3月1日から12月31日までに開催される BWF のグレード1大会（ジュニア大会は除く）とグレード2のすべての大会において試験的に採用されることになりました。国内においてはヨネックス秋田マスターズ2018（7月）とダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2018(9月)の2大会が該当することになります。

そのような背景から、例年ならば本年度4月に発刊が予定されている表記の競技規則ならびにルール教本ですが、発刊してから2か月も経ないうちにルール改訂が実施される恐れもあり、発刊を本年8月1日に延期することといたしました。ご理解の程、よろしくお願いたします。

また、もしニュースコアリングシステムが5月のBWF総会で承認された場合、BWF主催大会では翌月6月からの大会での新システム実施になることが予想されますが、(公財)日本バドミントン協会第1種大会では8月1日からニュースコアリングシステムを導入し、平成30年度内は大会主管団体において現行スコアリングシステムもしくはニュースコアリングシステムのどちらかを選択できる猶予期間とし、平成31年度からはニュースコアリングシステムのみとする予定です。

一方、サービス高1.15mの固定については、平成30年5月開催予定のBWFの動向を見ることとし、平成30年度中(平成31年3月末日迄)は現行のままとし、改訂の予定はありません。

以上